

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学基幹科目群	臨床心理学原論	臨床心理分野専門職大学院の理念に沿い、臨床心理学の全体像をより実践的に広く理解できることを目標とする。そのために臨床心理学の歴史を踏まえ、その専門性と対人援助観、基本的論点、研究倫理及び職業倫理、心理面接の構造や面接経過、心理アセスメントの原則、プレイセラピーの意義、そして、近年の重要なテーマである災害時等の危機的状況での心理支援について学習する。専門職大学院の特徴を踏まえ、講義を中心にしながらも、ディスカッションやプレイセラピーのロールプレイなどを積極的に導入し、臨床心理学の根幹となる知識や技能を修得することを目指す。	
	臨床心理面接学原論 (心の健康教育に関する理論と実践)	支援対象者の心の健康の保持増進のための教育や情報提供を行う為に、臨床心理士及び公認心理師の実践について学ぶことを目指す。その為に、心理臨床相談室での実習を通して、心理面接の構え、ケースの進め方、事例報告のまとめ方など、臨床心理面接を実施していく上での基本的な考え方を習得することを目指す。具体的には、心理面接の意義や概念、治療構造論、転移・逆転移の扱い方、クライアントの問題行動・症状の見立て方、等に関する反転学習を通して、プレゼンテーションやグループディスカッションによる多様な学びを促進する。	
	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	心理アセスメントには観察法、面接法および心理検査法がある。これらを踏まえ、まず概論として臨床心理学及び公認心理師の実践における心理アセスメントの位置づけや意義、導入する際の心構えについて学習する（公認心理師到達目標①）。次いで、臨床心理学及び公認心理師の実践における心理アセスメントに関する理論と方法論について学習する（公認心理師到達目標②）。さらに、具体的な事例を用いて、代表的な手法の実施法や解釈法に取り組む。とりわけ知能検査法や投映法等を重点的に取り上げ、施行法から解釈、フィードバックのあり方について学習する。また、本演習では、テスト体験及びテスト体験を導入し、体験的に学んでいく。さらには、心理支援における心理に関する相談、助言、指導等に際して、心理アセスメントをどのように活用していくかの基本的な姿勢を学習する（公認心理師到達目標③）。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	「臨床心理査定演習Ⅰ」を受け、心理検査を用いた実際の事例解釈のあり方を具体的な臨床事例を用いて学習する。ロールシャッハ法を軸とした複数のテスト・バッテリーの組み方や施行法、解釈について、具体的な臨床事例や健常群の事例を用いて学習する。そのなかで、実施上の留意点や心理面接での役立て方、フィードバックのあり方など、統合的な人格理解について体験的に学習する。さらに臨床群に特徴的なプロトコルを学習する。健常群の事例検討では、描画（樹木画等）、SCT、WAIS、ロールシャッハ法などのテスト・バッテリーを導入した事例の心理的力動のあり方を通して多面的立体的な人物理解を目指す。	
	臨床心理面接演習Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	心理面接の契約の仕方、事例の見立て方、面接過程を促進するための導入期、展開期、終結期の技法と留意点などの基本的知識と技能を、文献から学ぶことに加え、ロールプレイなどの実際体験をとおして臨床実践力として修得することを目指す。 また、力動論に基づく心理療法の理論と方法、行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法、その他の心理療法の理論と方法の基礎的理論を学ぶ。さらにその基礎的理解をもとに、心理療法の相談、助言、指導等への応用と支援対象者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学習し、臨床心理士及び公認心理師の実践について知識を得る。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学基幹科目群	臨床心理面接演習Ⅱ	<p>受講生の臨床心理面接についての基礎理解と体験的理解を深化させることを目標とする。体験的理解の基盤となるのは、受講生自身が経験する心理臨床相談室における電話受付、インテーク陪席ならびに学外実習での臨床体験等である。本演習においては、受講生同士が相互にディスカッションを行い、知識と体験を融合し、自らの体験と結びつけながら深化させることで臨床心理面接を実施する構えを養う。さらに、この授業を通して個別支援能力、集団支援能力、地域支援能力を涵養することを目標とする。</p> <p>本授業では、グループによる調査、発表、ディスカッションにより授業が進められる。</p>	
	臨床心理査定・面接実習Ⅰ (心理実践実習)	<p>心理臨床相談室における学内実習の基本事項を実践的に学ぶ。 (全教員による共同担当 / 全15回) (久保陽子・廣瀬幸市 / 15回)</p> <p>電話受付、インテーク面接から来談契約、構造化された臨床心理面接に至るまでの流れについて実習を通して理解する。 (中原睦美・高橋佳代 /15回)</p> <p>窓口受付業務全般、書類・心理検査・遊具・備品など設置場所の確認、カルテの保管等の事務的な事項について実習を通じて理解する。 (仲 沙織・山口勇弥 / 15回)</p> <p>ロールプレイを通じて、クライアントとセラピスト各立場による体験の相違を捉え、クライアント理解と面接の流れをつかむ訓練を行う。 (今村智佳子・中村真樹・二宮幸大 / 15回)</p> <p>ロールプレイを通じて、クライアントを発達的な視点から理解を行い、発達課題の視点から捉え直せるよう基本的知識や技術を身につける。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
	臨床心理査定・面接実習Ⅱ (心理実践実習)	<p>心理臨床相談室における実際の心理面接を通して、心理臨床における心理面接のあり方の基礎を実践的に学ぶ。 (全教員による共同担当 / 全15回) (山口勇弥・久保陽子 / 15回)</p> <p>インテーク面接の目的を理解し、クライアントの現況や主訴の聴取、来談契約の受付、インフォームド・コンセント等について、実践的に学習する。 (中原睦美・高橋佳代 /15回)</p> <p>わが国における代表的な臨床心理面接技法に関して、心理面接を通して体験的に学習する。 (仲 沙織・廣瀬幸市 / 15回)</p> <p>クライアント中心療法の適用事例を通し具体的に実習することで、その治療的意義を学習する。 (今村智佳子・中村真樹・二宮幸大 / 15回)</p> <p>認知行動療法の治療技法について適用事例を通し学習する。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学 基幹科目群	臨床心理査定・ 面接実習Ⅲ (心理実践実習)	<p>心理臨床相談室における実際の心理査定を通して、心理臨床における心理査定のある方の基礎を実践的に学ぶ。 (全教員による共同担当 / 全15回) (仲 沙織・高橋佳代 / 15回)</p> <p>相談事例における知能検査、発達検査、質問紙による性格検査の適切な施行法や解釈のある方について学習する。 (廣瀬幸市・中村真樹 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定における児童、父母、親族、その他に対する聴き取りのテクニックについて学習する。 (今村智佳子・中原睦美 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定におけるテストバッテリーの組み方について学習する。 (久保陽子・山口勇弥・二宮幸大 / 15回)</p> <p>相談事例の心理査定における対象者へのフィードバックのある方について学習する。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
	臨床心理査定・ 面接実習Ⅳ (心理実践実習)	<p>心理臨床相談室における実際の心理査定・心理面接を通して、心理臨床における心理査定・心理面接のより高度な側面を実践的に学ぶ。 (全教員による共同担当 / 全15回) (今村智佳子・廣瀬幸市 / 15回)</p> <p>相談事例における投映法による性格検査の適切な施行法や解釈のある方について学習する。 (仲 沙織・山口勇弥 / 15回)</p> <p>臨床心理面接実習の発展的課題として、より効果的で効率的な臨床心理面接を行うために必要な技法の習得を目指す。 (中原睦美・高橋佳代 / 15回)</p> <p>パーソナリティ診断の重要性を認識し、各自でパーソナリティ検査が実施できるよう学習する。 (久保陽子・中村真樹・二宮幸大 / 15回)</p> <p>発達段階、発達的特徴を評価できるよう、各自で新版K式発達検査やWISC-Vといった発達検査・知能検査を実施できるようにする。</p> <p>また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
臨床心理学 展開科目群	臨床心理関連 行政論 (司法・犯罪 分野に関する 理論と支援の 展開)	<p>心理臨床家が知っておくべき法律・制度や倫理について学ぶ。具体的には、教育、医療・保健、福祉、司法・矯正、労働・産業の各領域において、それぞれの専門機関の運用根拠となる法律や臨床心理の実務に関連する条文に触れ、法的枠組みの下での心理臨床の実践について基礎的な知識を学ぶ。また、法令根拠が異なる関係機関同士の連携のある方や他職種と協働する際の心理臨床家としての役割、個人情報保護、説明責任、守秘義務などの人権、倫理にまつわる問題等について、具体的な事例を題材とした討議形式による演習を進めていく。更に、司法・犯罪分野に関わる臨床心理士及び公認心理師の実践(犯罪・非行の加害者臨床、犯罪被害支援及び家事事件等)や、司法・犯罪分野特有の課題について知見を踏まえながら考える力を身につける。</p>	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学 展開科目群	臨床心理事例 研究演習Ⅰ	<p>1年次の学習を受け、心理臨床に関わる基礎的理解や実践を基に、最近の理論や技法を体系的・実践的に学習する。特に心理面接技法に焦点を当て、自らの体験事例を中心に1年次の学習を深化させながら、論文執筆に繋がる学びを得ることを目標とする。 (2名の教員によるジョイント担当) (中村真樹・久保陽子 / 1回)</p> <p>授業進行に関するオリエンテーションと共に、事例研究論文に関する概説を行う。 (中村真樹 / 7回) (久保陽子 / 7回)</p> <p>公刊された事例研究論文をもとに、論文構成、事例の概要や面接経過の記述、考察の視点などについて学ぶ。</p>	
	臨床心理事例 研究演習Ⅱ	<p>1年次に学習した臨床心理学原論、臨床心理面接学原論、臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理面接演習Ⅰ・Ⅱ、臨床心理査定・面接実習Ⅰ・Ⅱを受け、心理臨床に関わる発展的な、そして、最近の心理臨床理論や心理臨床法を体系的・実践的に学習する。論文執筆に焦点を当てた臨床心理事例研究演習Ⅰとは異なり、本授業では、まず、臨床心理士などの心理職に関わる多くの領域で導入される表現療法について体験的について学習し、さらに精神科領域における心理職のアウトリーチ型支援の実際について学習する。これらを通して、心理査定の実践や支援のあり方、他職種連携等を学習し、多様な心理臨床の実際を修得することを目的とする。 (2名の教員によるジョイント担当) (中原睦美 / 7回)</p> <p>心理査定における研究倫理や職業倫理、テスト・バッテリーや所見の書き方、多様な臨床領域における心理臨床のあり方や描画法及びコラーージュ療法に関する内容について体験的・実践的に学習する。 (仲 沙織 / 7回)</p> <p>精神科医療領域における心理職のアウトリーチ型支援について、導入の歴史的背景や制度を概観し、地域医療における心理職の専門性や求められる役割、他職種との連携・協働について学習する。また、事例をもとにした心理アセスメントやロール・プレイを通し、体験的・実践的に学びを深める。 (中原睦美・仲 沙織 / 1回)</p> <p>授業内容のまとめを行い、内容理解の深化を図る。</p>	
	臨床心理実践 研究Ⅰ (心理実践実習)	<p>学内実習を通して得られた心理臨床の力を、臨床心理地域援助に活用できるような臨床実践能力の定着・深化を図る。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (久保陽子 / 15回)</p> <p>地域援助のできる臨床心理査定の基礎的能力を養う。 (山口勇弥 / 15回)</p> <p>地域援助のできる臨床心理面接の基礎的能力を養う。 (廣瀬幸市 / 15回)</p> <p>地域援助を行う臨床心理士としての基本的視点を学ぶ。 (高橋佳代 / 15回)</p> <p>地域援助を行う臨床心理士としての倫理を学ぶ。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
	臨床心理実践 研究Ⅱ (心理実践実習)	<p>臨床心理査定や臨床心理面接の基本的能力の獲得を確認し、個別、集団、地域、危機介入などの臨床心理地域援助能力に結びつける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (山口勇弥 / 15回)</p> <p>地域援助における個別支援の実践力を身につける。 (仲 沙織 / 15回)</p> <p>地域援助における地域支援の実践力及び危機介入の考え方を身につける。 (中村真樹 / 15回)</p> <p>地域援助における集団支援の考え方を身につける。 (中原睦美 / 15回)</p> <p>地域援助における心理査定の実践力を身につける。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
臨床心理学 展開科目群	臨床心理実践 研究Ⅲ (心理実践実習)	<p>地域援助者としてより高度な臨床実践能力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (仲 沙織 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域における地域援助の実践力を身につける。 (今村智佳子 / 15回)</p> <p>福祉領域における地域援助の実践力を身につける。 (中原睦美 / 15回)</p> <p>集団支援におけるより高度な考え方を身につける。 (中村真樹 / 15回) (二宮幸大 / 15回)</p> <p>教育領域における地域援助の実践力を身につける。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
	臨床心理実践 研究Ⅳ (心理実践実習)	<p>地域援助者として必要な総合的臨床地域援助能力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (今村智佳子 / 15回)</p> <p>地域援助におけるコミュニティ心理学の視点を身につける。 (久保陽子 / 15回)</p> <p>医療領域における地域援助の実践力を身につける。 (廣瀬幸市 / 15回)</p> <p>臨床地域援助における総合的な視点を身につける。 (高橋佳代 / 15回)</p> <p>種々の文献を通して多様な地域援助のあり方を学ぶ。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
	臨床心理地域 援助実習Ⅰ (心理実践実習)	<p>学外実習により、心理支援の実践力を修得することを目的とする。 各機関の機能とスタッフの職務及び臨床心理士の役割について学習する。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (山口勇弥 / 15回) 司法・矯正領域の機関についての理解を図る。 (久保陽子 / 15回) 福祉領域の各実習機関についての理解を図る。 (今村智佳子 / 15回) 教育領域の各実習機関についての理解を図る。 (仲 沙織 / 15回) 医療領域の各実習機関についての理解を図る。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
臨床心理 学展 開科 目群	臨床心理地域 援助実習Ⅱ (心理実践実習)	<p>学外機関における心理査定のある方について、基本的な考え方と技術を学び、臨床心理査定の実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (久保陽子 / 15回) 福祉領域の各実習機関についての理解を図る。 (今村智佳子 / 15回) 教育領域の各実習機関についての理解を図る。 (仲 沙織 / 15回) 医療領域の各実習機関についての理解を図る。 (山口勇弥 / 15回) 司法・矯正領域の機関についての理解を図る。 福祉領域における臨床心理査定の実践力を身につける。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
	臨床心理地域 援助実習Ⅲ (心理実践実習)	<p>学外機関における心理面接のある方について、基本的な考え方と技術を学び、臨床心理面接の実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (今村智佳子 / 15回) 教育領域の各実習機関についての理解を図る。 (久保陽子 / 15回) 福祉領域の各実習機関についての理解を図る。 (仲 沙織 / 15回) 医療領域の各実習機関についての理解を図る。 (山口勇弥 / 15回) 司法・矯正領域の機関についての理解を図る。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
臨床心理学 展開科目群	臨床心理地域 援助実習Ⅳ (心理実践実習)	<p>学外機関における集団支援及び地域支援のあり方について基本的な考え方と技術を学び、心理支援の応用的実践力を身につける。 (4名の教員による共同担当 / 全15回) (仲 沙織 / 15回)</p> <p>医療領域の各実習機関についての理解を図る。 (久保陽子 / 15回)</p> <p>福祉領域の各実習機関についての理解を図る。 (今村智佳子 / 15回)</p> <p>教育領域の各実習機関についての理解を図る。 (山口勇弥 / 15回)</p> <p>司法・矯正領域の機関についての理解を図る。 福祉領域における集団・地域支援の考え方を身につける。 また、①心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識及び技能の習得、②心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ、④多職種連携及び地域連携、⑤臨床心理士及び公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解、について学習する。</p>	共同
	総合的事例研究 演習Ⅰ	<p>2年間の専門職学位課程のまとめとして、臨床心理士業務の4つめの柱であるリサーチ能力を養成するため、研究倫理ガイドラインにそった事例論文のあり方を学ぶ。 (全教員による共同担当 / 全15回) (久保陽子 / 15回) (中原睦美 / 12回) (廣瀬幸市 / 12回) (今村智佳子 / 12回) (高橋佳代 / 12回) (仲 沙織 / 12回) (中村真樹 / 12回) (山口勇弥 / 12回) (二宮幸大 / 12回)</p> <p>筆頭教員による3回の全体授業と全員の担当教員により、事例論文執筆に際しての視点のあて方や論文の書き方などを合同及び個別にて指導する。</p>	共同
	総合的事例研究 演習Ⅱ	<p>総合的事例研究演習Ⅰを受け、主に自分が担当した心理相談事例を基に事例研究論文執筆や発表を通して臨床体験を根付かせる。 (全教員による共同担当 / 全15回) (廣瀬幸市 / 15回) (久保陽子 / 13回) (中原睦美 / 13回) (今村智佳子 / 13回) (高橋佳代 / 13回) (仲 沙織 / 13回) (中村真樹 / 13回) (山口勇弥 / 13回) (二宮幸大 / 13回)</p> <p>筆頭教員による2回の全体授業では、事例研究論文の構成や執筆のあり方及び臨床心理士としての職業倫理や事例研究論文における研究倫理について学習する。さらに、全員の担当教員により、各臨床ゼミにおいて、論文執筆の事例の選択、テーマの絞り込み、キーワード決定、論文の構成、面接過程のまとめ方、倫理的配慮など、事例論文執筆の具体的な段階に関する指導を行う。最後の4回は事例研究論文発表会を開催し、2年間の学習の総括を行う。</p>	共同

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 必 修 科 目 群	学校心理臨床論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	本授業では、教育分野における臨床心理士や公認心理師の実践について学ぶ。前半の授業では、実践の基礎となる学校やスクールカウンセリングを含めた教育制度等に関する基礎知識、学齢期の心身の発達について学習を行う。その後、スクールカウンセラーとして関わることの多い、不登校、特別支援関係、いじめ、といった問題や学齢期における発達課題等を各授業でテーマとして取り上げて学んでいく。 後半の授業では、すべての子どもを対象とした心理教育について前半の授業で学んだことなどを活かしてもらい、受講生に模擬授業を企画、実施してもらい、より実践的に学びを深める。	
	福祉心理臨床論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	福祉分野における諸問題は、心身の発達や虐待など子どもに関わる問題から、障害者支援、女性問題、高齢者の問題などと多岐に渡り、かつ輻輳している。また、多様な福祉施設においては、様々な支援制度のもと多職種協働・連携が求められる現状にある。そこで本演習では、これら子どもや障害者、女性、高齢者の福祉において生じる問題及びその背景、福祉施設の役割、関連する支援制度などについて概観した上で、福祉現場における心理社会的課題とその心理的支援のあり方について事例検討やグループディスカッションを行い、福祉分野に関わる臨床心理士及び公認心理師の実践について理解を深める。	
	医療心理臨床論	本演習では、主に精神科医療領域および小児科領域における疾患や問題、心理職の職務の実際について学ぶ。まず、現場で知っておくべき法律や制度の歴史の変遷、現状や課題について理解する。次に、各医療領域における多職種の理解を踏まえ、連携・協働について学ぶ。さらに、臨床心理士、公認心理師の専門性や現場での職務の実際について、事例をもとに学びを深める。	
	司法・矯正心理臨床論	本授業では、犯罪・非行理論に関する知識を習得するとともに、演習等を通じて実践的な学習を行う。まず、犯罪・非行研究の歴史や我が国における法制度、犯罪・非行のメカニズムに関する古典的理論を概観する。次に、社会的視点から見た非行・犯罪、加害と被害の関連、リスクアセスメント、犯罪類型、被害者支援等における知見を学んでいく。また、司法・矯正領域で働く心理臨床家の実務について、演習等を通じて体験的に学ぶ。まとめの授業として、矯正施設が抱える課題について集団討議・発表を行い、学びを深めていく。	
	臨床精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	精神医学、精神医療は病的な精神状態を扱う医学、医療の一分野であるが、その内容は自然科学、人文学、司法、人権、社会保障など、極めて広い裾野を有する。本演習では、精神医学の基礎的な知識を広く獲得することを目的とするが、中でも一般的な精神科医療機関で接する頻度の高い精神疾患や、精神科診療に従事する際に知っておくべき精神医療独特の法制度などについては、より詳しく解説する予定である。本演習を通して精神医学の知識を学ぶとともに、精神科医療の現場に対する関心が深まることを期待する。また、保健医療分野に関する臨床心理士及び公認心理師の実践についても学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
領域科目群 選択必修科目群	臨床心理倫理特論	心理臨床家として、援助行為や研究等を遂行する上で、どのような倫理的な問題が生じる可能性があるのか、そのような事態をどのように予防するか、そのような問題が生じた際にそのように対応する方法があるのか、を知っておくことは、専門的職業人としての義務である。本講義では、日本臨床心理士会「臨床心理士の基礎研修」や「公認心理師の職責」の基本テキストを読み取り、援助専門職のための法的義務や職業倫理を学ぶ。さらに、様々な事例を基に、心理臨床家としてどのような倫理的判断を行うのか、ディスカッションを通して実践力を培う。	
	児童期心理臨床論	児童は社会的状況の中で成長するものであり、認知能力、情緒的反応、関係性の能力、社会的行動等の児童の発達の様々な側面が研究されてきた。そして今日、児童を取り巻く環境はじわじわと児童にとって窮屈なものになり、その中で堪え切れなくなった児童は、さまざまな不適応反応を示す。本講義では、児童期におけるアイデンティティ形成過程について講じるとともに、様々な臨床的症候群や児童虐待などの問題を取り上げ、心理臨床家としての心理的援助の在り方について考える。	
	成人・老年期心理臨床論	生涯発達心理学の観点から成人・老年期の心理とその支援について、「老い」「加齢」に関する自らの問いや価値観を照合しながら、「老い」「病」「死と看取り」のテーマを中心に学習する。なかでも老年期に必要とされる心理査定及び心理療法の学習を行い、さらに、高齢者領域で臨床心理士として関わるに際して必要なチームアプローチについて学習し、現代社会における老年期にある当事者及び支える人、周囲の人々に関する人間観及び臨床観を培う。3回～4回の集中形式にて対面実施する。	
	発達障害者心理臨床論	発達障害児・者について、診断学的な特徴、行動面・情緒面の諸特徴について学び理解を深める。発達障害に関する先端的な研究知見や、ライフステージに応じた支援の在り方について学ぶことで、教育・医療・福祉・司法等の各領域の現場の臨床心理士及び公認心理師に必要とされる対応のあり方を学ぶ。また、発達障害の理解に重要となる、認知能力・発達障害症状に対するアセスメントについて学ぶ。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
選択 必修 科目 群	臨床心理支援 特論	臨床心理学的支援の実践について学ぶ。心理臨床における現場は多岐に渡り、対象者も多様であるため、その実践には応用力が求められる。そのために、臨床心理学的支援の基本となる個別の心理面接について学習することが必須である。本演習では、クライアントの来談から終結（中断）までのポイントをテーマに挙げ、理論的理解、具体的な対応について学習し、実践的な視点から臨床心理学的支援のあり方について理解を深める。	共同
	臨床心理査定 特論	本演習では、検査や面接等から得られた情報を分析・解釈し、対象者を的確に査定するための基礎的技術を習得することを目標とする。公共性（客観性）と共感性の双方を大切にしつつ、特に、臨床現場でよく用いられる質問紙（MMPI、YG、TEG等）や認知症検査、臨床心理査定演習Iで学修するWAIS、SCT、バウム、ロールシャッハ法以外の知能検査（WISC、田中ビネー等）および投映法（PFスタディ、風景構成法等）について、具体的事例の検討、所見作成などを通して実践的に学んでいく。	
	遊戯療法論	遊戯療法（プレイセラピー）とは、子どもを対象とし、遊びを媒介とした心理療法の総称である。遊びは言語能力が十分に発達していない子どもにとって、自身の心的世界を表現するのにもっとも有効な手段である。そのため、遊戯療法は情緒的課題を持つ子どもなど幅広く適用されており、子どもの心理的課題の支援に有効性の高いアプローチと言える。本講義では、遊戯療法の歴史的展開や理論的潮流、それぞれの学派の基礎的理論を学んだ上で、セラピストが遊びを通していかに子どもの内的世界を理解するのか、実践的な議論を行う。	
	集団心理臨床論	臨床心理学における集団心理療法は、病院や施設での患者（クライアント）や施設利用者の適応的な方向への行動変容や人格の成長・発達を援助することが目的であり、そのための集団による言語的・非言語的心理療法的介入の方法である。本講義では、まず集団心理療法の基本的な理論を学習するとともに臨床適用のための基本的な方法について学ぶ。さらに、代表的な集団心理療法の一つであるサイコドラマの理論と方法を学び、臨床実践への応用方法を学ぶ。	
	ストレスマネジメント論 （産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	ストレスマネジメントを取り巻く現代的諸問題群について考察することを通して、産業心理臨床に関わる理論と実践を学習することを目指す。現代の職場におけるメンタルヘルス問題等について学習することを通して、それらの背景構造にまで目を向けて理解して、現代に適合した対策と予防について学ぶことを目標とする。産業・労働領域だけに止まらず、医療、福祉、教育領域においても、雇用に関わる場面での支援と実践に通底する専門的構えについて学習することを通して、臨床心理士及び公認心理師としての臨床心理実践について振り返る学びを促進する。	
	認知行動療法論	本科目では、第一世代から第三世代にわたる認知行動療法の発展の歴史を踏まえつつ、各世代の基礎理論と具体的技法（行動療法、認知療法、MBCTなど）について、文献読解、講義に加えてロールプレイを多く取り入れながら体験的に学習する。また、認知行動療法におけるケースフォーミュレーションを学び、心理アセスメントの枠組みを習得する。さらに、介入技法に共通性が多いと言われている第三世代の認知行動療法とわが国で開発された森田療法との比較検討を行ない、認知行動療法の特質について論考を深める。	

授 業 科 目 の 概 要

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
選 択 基 礎 科 目 群	臨床心理学入門	本講義は、受講生が現代社会の問題群も視野に入れながら、心理援助の専門職として「どのような人たちに／どのような立場から／どのような支援を行うのか」を考え、実践できるようになるための「土台づくり」を目的とする。そのための基礎的な知識として、代表的な心理療法や心理査定、心理的援助のアプローチを扱うとともに、要支援者の安全、意思表示、選択を促進する観点や枠組みとして、トラウマインフォームドケア、社会正義アプローチ、援助関係における力／権力の扱いなどにも触れる。	
	比較心理学特論	比較心理学では、ヒトを含めた複数の動物種の行動を取り扱う。つまり他の動物と比較することで、より深くヒトのヒトとしての特性（生物としての一般性と種としての特異性）を理解するのである。本講義では比較心理学における主な知見を紹介し、生物学的・科学的な人間観の形成を目指す。授業では、単に講義を聴くのみではなく、毎回レポーターが与えられたテーマについて調べてきたことを発表し、それをもとに全体で討論を行う。	
	認知心理学特論	<p>生きたヒト・動物が示す様々な行動は、生命活動そのものの証であり、心理学の研究対象となります。</p> <p>では行動の本質とは何か。それは経験の結果として生じる行動の変容、すなわち学習にあると考えられます。では学習が生じるのはなぜか。記憶というしくみが、その根底にあるためと考えられます。では記憶されるものは何か。その1つは、例えば感覚器官によってもたらされる色や音、味や匂いなどの経験になります。</p> <p>では例えば感覚とは何か。それが本講義の根底を成すテーマとなります。講義ではその基礎的なしくみや機能について、あるいはそうした機能の失調による障害等について、様々な知見を提供します。なお、認知心理学特論の履修以前に、そもそも大学での学びとは何か（今世界で起こっている出来事を例に）、さらにヒト・動物を取り巻く環境についても（身近な動植物を例に）、毎回話題を提供します。</p>	
	社会心理学特論	人間は社会的動物であり、社会との関係性を抜きに人の心理や行動をとらえることは難しい。本講義では、人間の心理と社会現象との関係を分析するために社会心理学の知識と研究法を習得することを目標とする。特に、近年社会心理学の分野で注目されている、進化心理学と文化心理学について詳しく紹介する。授業では、複数のテキストを用いて受講生が発表、討論を行い、それらを通して、人の普遍性と多様性について社会心理学の視点から考察できるようになることを目指す。	
	コミュニティ心理学特論 （家族関係・ 集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	コミュニティ心理学が依拠する基本理念について理解し、様々な臨床領域におけるコミュニティ援助の実際を、オープンダイアログやベテるの家の実践を参照しながら学習していく。これらの学習を通して、臨床心理士及び公認心理師による、家族や組織の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、あるいは地域コミュニティや集団・組織に働きかける心理学的アプローチに関する理論と方法、さらにコミュニティの中にいる当事者に対する支援の在り方についても理解を深めることを目指す。	
	臨床精神薬理学特論	薬の基本的な概念を理解し、向精神薬・抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬・睡眠薬などのこころの病を中心とした薬理作用を学んでいく。また、薬物治療中の患者においては、どのような社会生活への影響が起こりどのような精神的不安を抱える事になるのかを、医学的観点から考察していく。糖尿病や高血圧症の生活習慣病などの薬物治療についても学び、その他の疾患による精神的影響について理解を深める。	